

専任講師 松浦 康之

専門分野

生体医工学
人間工学
仮想現実
ヒューマンインタフェース
データサイエンス

学位・資格

博士（生体情報）

研究者情報
(Research Map)



専門分野と社会との関わり

心電図や胃電図、重心動揺などの生体信号を用いた生体評価や仮想現実（VR）・拡張現実（AR）などの3D映像視聴時の生体影響評価に関する研究に従事しています。

生体信号を用いた生体評価では、既存手法による分析だけではなく、人工知能（AI）を用いたデータ分析も行っております。その結果、既存の解析方法では得られなかった新たな知見も得られています。また、3D映像視聴時の生体影響評価では、3D映像のユニバーサルデザインを目指して、3D映像酔いの簡易検出・可視化および、その社会的実装のフィジビリティの検討を進めています。



最近の活動紹介

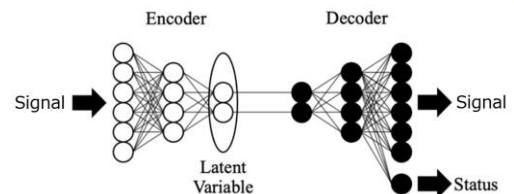
教育活動／研究活動／地域貢献活動

データ駆動科学教育研究センター（DSセンター）

DSセンターの専任教員として、国際的な視野に基づいたデータサイエンス教育（グローバルデータサイエンスコース（GDSC））の企画などを主に担当しております。

国際化が進む現代社会の中で問題解決を図るには、異文化理解を含む柔軟な発想と、データ分析能力が必要です。そのため、DSセンターでは、GDSCを設置し、これらを身につけた人材の育成を行っております。

異文化理解では、データ分析にも必要な広い視野と多面的な視点を育てることを目的として、異文化理解に関する科目の設置や、海外研修、オンライン交流の実施を進めております。



授業紹介／ゼミ生による教員紹介

異文化理解と社会の変化

DSセンターが開講している講義で、3学科の学生さんが受講できます。

ここで言う「異文化」とは国際だけではなく、文化や言語、地域差といった様々な背景の違いを指しています。例えば、右の写真は、キプロスのニコシアにあるクロスポイント（国境）です。この写真の中にも、実は地域の複雑な歴史と背景を示しています。

生成AI（人工知能）など時代の変化が激しい現代において、社会も多様化・複雑化しています。そのため、異文化や社会の変化を学び、一緒に考えることで、お互いの視野を広げたり、他者の視点に立脚して考えていきます。

